

**「中央新幹線中央アルプストンネル新設（萩の平・広瀬工区）工事における環境保全について
～中央アルプストンネル（萩の平）～」に対する長野県からの助言と事業者の対応方針**

長野県からの助言	事業者の対応方針
<p>1 全般 (1) 工事实施に伴い要対策土の発生、地盤沈下、河川水量の減少などの環境影響が発生した場合又はそのおそれが生じた場合は、直ちに関係機関等へ連絡すること。また、速やかに必要な調査を実施し、原因の究明に努めるとともに、関係機関等と協議を行い、適切な環境保全措置を講じること。</p>	<p>事後調査及びモニタリングの結果、影響のおそれがあると判断された場合には、速やかに関係機関等へ連絡するとともに、自治体及び関係機関等と協議し、「中央新幹線中央アルプストンネル新設（萩の平・広瀬工区）工事における環境保全について～中央アルプストンネル（萩の平）～」(以下「環境保全について」という。)に記載のとおり、必要な場合には、環境保全措置の追加又は変更を行います。</p>
<p>(2) 工事区域の近隣で実施されている他事業との複合的な環境影響が懸念されるため、当該事業の事業者と引き続き協議、調整を行い、複合的な環境影響の回避又は低減に努めること。</p>	<p>工事区域の近隣で実施されている他事業の事業者とは、工事工程や環境調査について情報共有を図っていますが、今後も引き続き、工事用車両の通行に関して調整を図るなど、環境影響の回避又は低減に努めていきます。</p>
<p>(3) 工事の計画及び実施状況、事後調査及びモニタリングの結果並びに環境保全措置の実施状況について、積極的に公表するとともに、地域住民に対して引き続き丁寧な説明を行うこと。</p>	<p>「環境保全について」に記載のとおり、工事期間中の環境保全措置を適切に行うとともに、事後調査及びモニタリングを確実に実施し、その結果や環境保全措置の実施状況などを他の工事箇所と同様に年度毎に取りまとめ、長野県及び関係自治体へ報告する他、当社ホームページへも掲載します。また、地元住民への説明の方法については、阿智村及び地元と引き続き協議し、方針を決定していきます。</p>
<p>2 大気質、騒音、振動 工事用車両の運行ルート沿線における大気質、騒音及び振動のモニタリング調査について、地元住民の要望及び関係機関の意見を踏まえた調査地点、時期及び頻度での実施に努めること。</p>	<p>これまでも地元住民の方々や自治体と環境の保全に関する協議を行ってきました。今後も引き続き必要な調整を行いながら調査を実施していきます。</p>
<p>3 水環境 工事施工ヤード及び道路拡幅工事から発生する排水について、魚類及び水生生物を保全するため、水産用水基準に配慮した水質管理を徹底すること。また、トンネル掘削により発生する湧水や工事排水の河川放流方法について、放流先河川の河川管理者や漁業権を管理する下伊那漁業協同組合等と十分な協議を行い、必要に応じて対策を講じるとともに、引き続き丁寧な事前説明や状況報告を行うこと。</p>	<p>工事施工ヤードからの排水は、水質汚濁防止法に基づく上乘せ基準（長野県条例）を順守するなど水生生物への影響が出来る限り小さくなるよう努めます。道路拡幅工事においても、改変範囲を最小限にするなど、濁水発生の抑制に努めます。また、放流先河川の利水者の方々に対しては、これまでも工事概要や排水基準等についてご説明していますが、今後も必要に応じ、関係するの方々にご説明してまいります。</p>
<p>4 動物、植物、生態系 (1) 事業計画地周辺の上空では、クマタカの飛翔が確認されており、つがい形成された場合には、コンディショニングによる対応を優先させることなく、産卵期や育雛初期は工事用車両の運行を制限する等の工期の工夫を検討すること。</p>	<p>事業計画地周辺で確認されたクマタカについて、つがい形成された場合には、飛翔状況の調査頻度を上げるなど、生育状況の確認に努めると共に、必要に応じて工事の平準化を図るなど、コンディショニングによる対応に限らず、専門家の技術的助言を踏まえ対応します。</p>

<p>(2) 重要な種の移植・播種に当たり光環境の調査を行う際は、相対値で光量子束密度を算出して光環境の適否を評価すること。</p>	<p>光環境の調査における日照条件については、相対光量子束密度を算出して評価します。</p>
<p>(3) アオフタバラン及びオキナグサの移植・播種先は、近隣でなくても問題がないとする研究事例がないため、元の自生地に近い場所を選定するよう努めること。</p>	<p>アオフタバラン及びオキナグサの移植・播種先については、頂いた助言及び専門家の技術的助言を踏まえて元の自生地に近い場所を選定します。</p>
<p>(4) アオフタバランの生育環境は、草原、川岸よりも森林の林床が適しているため、移植を行う場合には、適度に暗く湿り気がある森林の林床を移植先を選定すること。</p>	<p>アオフタバランの移植先については、頂いた助言及び専門家の技術的助言を踏まえ、適度に暗く湿り気がある森林の林床を選定します。</p>
<p>(5) オキナグサは、根茎が非常に長い種であり、移植の際に根茎を切断すると活着率が低くなるため、移植に当たっては、根茎を切断しないよう留意すること。また、播種のために種子を保管する場合は、低温湿層処理等により発芽割合を担保すること。</p>	<p>移植対象個体の生育状況を確認し、移植の際に根茎を切断することのないよう留意します。また、種子の保管についても、発芽割合が担保されるよう低温湿層処理を行うなど、専門家の技術的助言を踏まえて対応します。</p>
<p>(6) 発生土の運搬のために工事用道路の設置や道路拡幅を行う場合は、重要な動植物への影響を極力回避できるようにルートや拡幅場所を検討すること。</p>	<p>発生土の運搬のための工事用道路の設置や道路拡幅にあたっては、重要な動植物への影響を極力回避できるようにルートや拡幅場所を検討します。</p>
<p>(7) 切土法面等の緑化について、地域の在来個体を使用するよう努めること。</p>	<p>法面緑化にあたっては、専門家の技術的助言も踏まえ、地域の在来個体を使用するよう努めます。</p>
<p>5 その他 工事用車両の運行による一般車両及び歩行者の安全の確保について、関係機関や地元住民等との協議、調整を引き続き十分に行い、必要な対策を講じること。</p>	<p>工事用車両の運行に伴う安全の確保や環境影響の回避又は低減に向け、引き続き関係機関や地元住民の方々等と協議、調整し、必要な対策を講じます。</p>